

青森県におけるムシガレイの漁獲動向

伊藤欣吾（青森県産業技術センター水産総合研究所）

【背景と目的】

青森県のムシガレイの漁獲量が近年増加傾向にある（図1）。その要因を探るため、漁獲物の年齢査定を行い、年級豊度と産卵期水温との関係を調べた。

【材料と方法】

2010年10月～2012年6月にほぼ毎月ムシガレイを採集し、耳石の輪紋を観察して輪紋形成の周期を調べた。耳石輪紋の観察は、無眼側の耳石を用いて、中心を通る厚さ300 μ mの横断薄片（図2）を作成して行った。

年齢査定は、2002～2013年の期間、毎年4～5月に新深浦町漁協本所に水揚げされたムシガレイを銘柄別に100尾を目安に採集して行った。得られた銘柄別の年齢組成を銘柄別漁獲量で引き伸ばし、年齢別漁獲尾数を推定した。なお、青森県日本海沿岸におけるムシガレイの産卵期は6月頃と推定されていることから、年齢起算日を6月1日とし、漁期を6月～翌年5月として計算した。

【結果及び考察】

ムシガレイの耳石輪紋を観察した結果、1年に1本の不透明帯が6～10月に形成されることが明らかになった（図3）。

漁獲されたムシガレイは1歳から10歳まで出現し、2～4歳が主体であった（図4）。

発生年別の漁獲動向を見たところ、最近では2005年級と2007年級が多く、2006年級が少なく漁獲されていた（図5）。この年変化は、マガレイ、ヤナギムシガレイ及びウスメバルでも同様の傾向が認められる。2006年の冬春季は、青森県日本海の水温が近年ではかなり低めに経過したことが特徴である（図6）。

今後は、コホート解析により資源尾数を推定し、親魚数と加入尾数との関係を明らかにし、再生産成功率の変動要因を調べる必要がある。

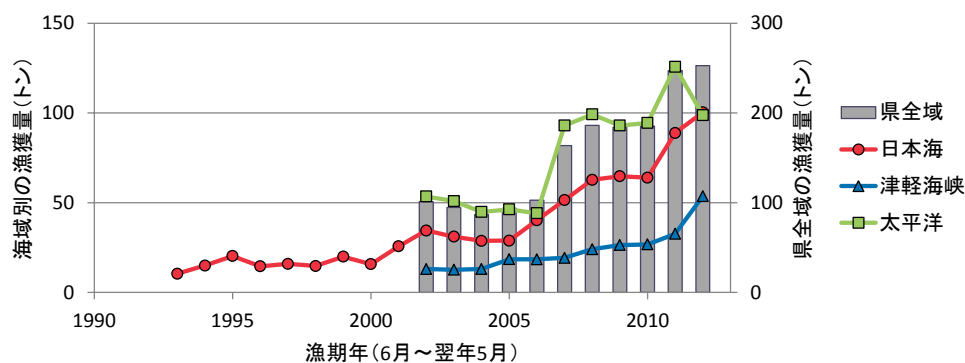


図1 青森県におけるムシガレイの海域別漁獲量の推移

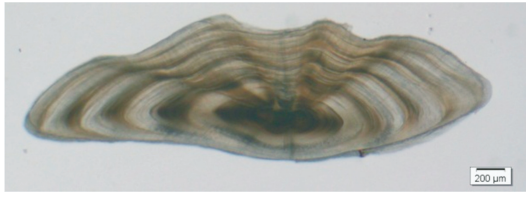


図2 ムシガレイの耳石横断面

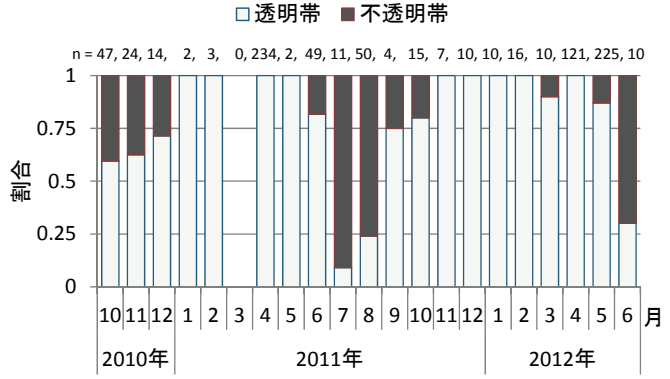


図3 耳石縁辺の透明帯と不透明帯の割合

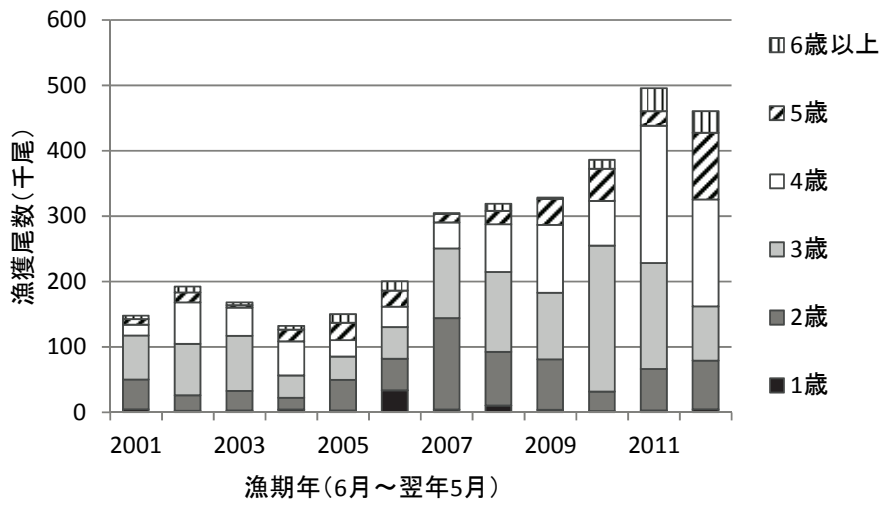


図4 青森県日本海海域におけるムシガレイの年齢別漁獲尾数

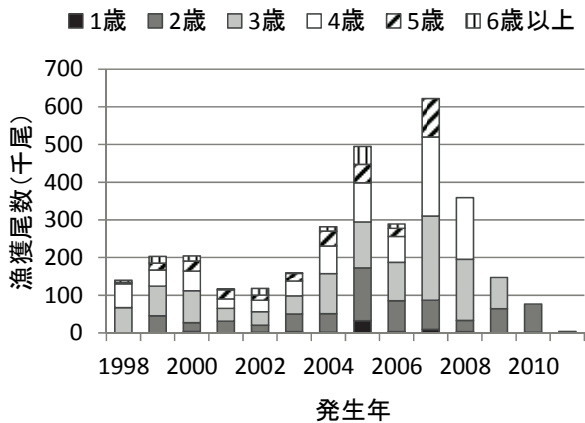


図5 青森県日本海海域におけるムシガレイの発生年別の年齢別漁獲尾数

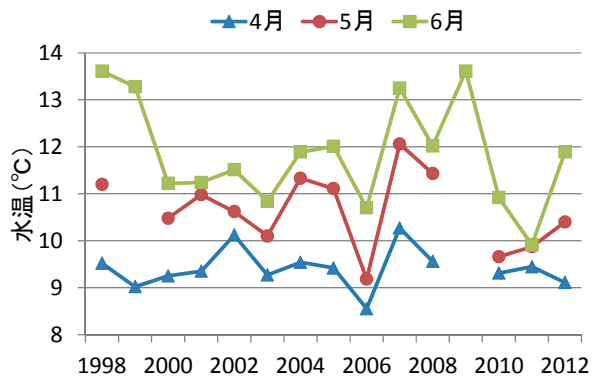


図6 青森県壱作崎西方の対馬暖流最高水温(50m層)の推移